

令和 2 年第 4 回訓子府町議会定例会会議録

○議事日程(第 3 日目)

令和 2 年 1 2 月 1 0 日 (木曜日)

午前 9 時 3 0 分開議

第 1 0 一般質問

- 第 4 議案第 7 3 号 令和 2 年度訓子府町一般会計補正予算 (第 6 号) について
- 第 5 議案第 7 5 号 令和 2 年度訓子府町後期高齢者医療特別会計補正予算 (第 1 号) について
- 第 6 議案第 7 6 号 令和 2 年度訓子府町介護保険特別会計補正予算 (第 2 号) について
- 第 7 議案第 7 4 号 令和 2 年度訓子府町国民健康保険特別会計補正予算 (第 3 号) について
- 第 8 議案第 7 7 号 町税条例の一部を改正する条例の制定について
- 第 9 議案第 7 8 号 町税外公法上の収入徴収条例及び訓子府町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について

追加日程

- 第 1 議案第 8 0 号 令和 2 年度訓子府町一般会計補正予算 (第 7 号) について
- 第 2 意見書案第 6 号 コロナ禍による地域経済対策を求める要望意見書

○出席議員（１０名）

1 番 須 河 徹 君	2 番 泉 愉 美 君
3 番 工 藤 弘 喜 君	4 番 谷 口 武 彦 君
5 番 河 端 芳 恵 君	6 番 西 森 信 夫 君
7 番 山 田 日出夫 君	8 番 余 湖 龍 三 君
9 番 仁 木 義 人 君	10 番 西 山 由美子 君

○欠席議員（０名）

○地方自治法第１２１条第１項の規定により説明のため出席した人

町 長	菊 池 一 春 君
副 町 長	森 谷 清 和 君
総 務 課 長	伊 田 彰 君
企 画 財 政 課 長	篠 田 康 行 君
町 民 課 長	元 谷 隆 人 君
福 祉 保 健 課 長	谷 方 幸 子 君
福祉保健課業務監	今 田 朝 幸 君
農 林 商 工 課 長	大 里 孝 生 君
建設課長・上下水道課長	渡 辺 克 人 君
元気なまちづくり推進室長	坂 井 毅 史 君
会 計 管 理 者	八 鉦 光 邦 君
教育委員会教育長	林 秀 貴 君
管 理 課 長	高 橋 治 君
子 ど も 未 来 課 長	山 本 正 徳 君
社会教育課長・図書館長	山 田 洋 通 君
農業委員会事務局長	原 口 周 司 君
農 業 委 員 会 会 長	細 川 孝 雄 君
監 査 委 員	平 塚 晴 康 君
選挙管理委員会委員長	森 下 直 治 君

○職務のため出席した事務局職員

議 会 事 務 局 長	山 内 啓 伸 君
議 会 事 務 局 係 長	吉 村 章 子 君

◎開議の宣告

○議長（須河 徹君） 皆さま、おはようございます。

それでは、定刻になりました。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の出欠報告をいたします。本日は全議員の出席であります。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布してあるとおりです。

◎一般質問

○議長（須河 徹君） 日程第10、昨日に引き続き、一般質問を継続いたします。

8番、余湖龍三君の発言を許します。

余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 8番、余湖です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。よろしくお願いします。

「町内事業者の業務転換ならびに新規事業の企業に対する補助制度の創設は」ということでお伺いいたします。

現在、訓子府町には地域経済の活性化および地域振興に寄与することを目的として「店舗出店等支援事業補助金」制度があり、この制度は当時、他町に先駆けた思い切った政策で、その補助金額も上限300万円と非常に新規出店者にとっては助けとなり背中を押してくれるものです。

現在、各事業所の中にはコロナ禍によって現在の営業に不安を感じ、将来の展望に苦慮する経営者がいるのは明らかだと思います。

今後の訓子府町の事業者の事業維持の可能性を高めるためにも「新たな補助制度」の新設の必要性を感じ、次の点をお伺いいたします。

一つ、「店舗出店等支援事業補助金」の現在までの実績ならびに事業の効果・課題についてお伺いします。

二つ、「店舗出店等支援事業補助金」の対象とならない事業者への「新たな補助制度」の新設の考えについてお伺いします。

よろしくお願いします。

○議長（須河 徹君） 町長。

○町長（菊池一春君） ただいま「町内事業者の業務転換ならびに新規事業の起業に対する補助制度の創設について」2点のお尋ねがございましたのでお答えいたします。

1点目に「店舗出店等支援事業補助金の現在までの実績ならびに事業の効果・課題について」のお尋ねがございました。

実績については、平成26年度から昨年度まで14件、4,074万6千円、今年度については、現在まで2件、600万円となっています。他に申請後、申請者の都合による取り下げ1件、申請が認定されなかったもの1件となっています。

事業の効果については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による開店の延期や休業を余儀なくされた店舗はありましたが、全店舗が現在も営業しており、地域経済の活性化に大きく貢献しているものと考えています。

課題については、平成26年度に要綱を制定し6年が経過しましたが、店舗出店にあたってさまざまな事例があることから、現在、要綱の見直しについて検討しているところです。

2点目に「店舗出店等支援事業補助金の対象とならない事業者への「新たな補助制度」の新設の考えは」とのお尋ねがございました。

1点目で回答しておりますとおり、店舗出店等支援事業補助金の要綱については、見直しを検討しています。現在の要綱で対象とならない事業者につきましても、この要綱の見直しの中で協議していきたいと考えています。

以上、お尋ねのございました2点につきまして、お答えいたしましたので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 返答ありがとうございます。再質問を何点かさせていただきたいと思います。

まず、この事業については、26年度からということで、昨年度まで14件、今年度入れますと16件ということで、本当にかんりの効果があるものだと確信しております。しかも現在までその事業者については、3年という縛りはありますけども、それぞれが経営を続けていく中で頑張っているんじゃないかと思います。私、質問させていただいた中で、課題というか、効果、効果については、本当に今言ったように、非常にいいものであるということで納得しておりますが、課題といいますか、問題点とかやっていく中でなかったのかなということを考えています。これは私がこういうことを質問するというのが事前に広報とかで流れてますので、心ある方がと言いますか、疑問を持っていた方々からも聞かれたことがありますので、そこら辺について、ちょっと確認させていただきたいと思います。

現在まで16件ということでやっておりますけども、中には一時休業されているお店もあったとか、最初の予定と違う業務転換をされたとか、新築とか空き店舗じゃなくて改築でやっている人もいるんじゃないか、それからもう一つ言われたのが、店舗譲渡したはずなんだけど営業を続けている店がある。そういうそこら辺のいろいろなことをそこら辺どうしてこうなっているんだという話を聞かれるんですけども、そこら辺のことはどういう種類の中でいっているのかお聞かせください。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） すいません、今、最後のちょっと聞き取れなかったんですけど、もう一度お願いしてよろしいですか。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 四つ目は、商売を移譲というか、店舗を貸して、自分で商売をやめたのかなと思ったら、その人がそれなりに商売をしてると。同じ店舗の中。そこら辺がよくわかんないんですけども、そういう店舗があるんじゃないかということで、そこら辺はあれでいいのかいという話があるんですけども、わかりますか言っていること。具体的な名前はちょっと、お名前あれしますが、そういう状態があるんじゃないかと思うんですけども。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） ちょっと私、どういう状況かわからないですけども、町長の方で答弁したものでいくと、コロナウイルスの感染拡大でまず営業自体が開店できない。休業要請出てましたので、開店できないのが1件あったということです。それからあと休業を余儀なくされた店舗ということで答弁してますけども、これについては、これも休業要請出てて、感染を広げないという意味で休業するということで、休業要請とけて、再開できるようになったときには、少し期間はありましたけども、再開しているということで、それはもうご本人がやられるということでの、僕の知っている店舗でいけば、そのようになっていますので、ちょっと余湖議員おっしゃる状況がどうなのかというのは、ちょっと私の方では知り得てない状況です。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 今、私、四つのことについて、お尋ねしたんですけども、今、室長がお答えになったのは途中休業に関しての休業ということなんでしょうがないんじゃないかということで、それは了解しました。返答聞きましたけども。

三つ目については、この要綱の中では店舗の新築、空き店舗の活用などによりというような条項がありますので、その中で改築業務転換という業者もあったんじゃないかと思うんですけども、そこら辺の理解はどういうふうになっているのか、

それと四つ目に言ったことは、商売をしていて、その店舗を次の方に、他町から来た方に譲って、そこでその方が補助をもらって業務を始めた訳ですけども、譲った方もまたそのまま商売をしているというのは、それはどういうことなのか。そういうことも可能だということで理解していいのかということで質問させていただきます。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 改築してのということで、ちょっとどういう状況、おそらく具体的な、ここの店舗とかということでのお話かと思うんですけど、私の知っているところのお話でいくと、お店、小売業をずっとやっていたんですけども、それをやめて、数か月後に新たに別の事業ということで、その店舗改築してということでやっていますので、事業を一時閉鎖して新たに別の業態での営業ということでの出店の許可だということです。

それから2点目の、事業やって、他町の方に譲ってということでのお尋ねだったと思いますけども、これについては、その店舗自体で以前のやられてた方がその店をやめて、別の方が新たにその店舗で事業をやるということで、まさに新規出店の対象ではないかと考えておりますので、審査会の方で許可しているということになっております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） わかりました。そういう判断でということで考えているということで、それはどういう考え方があるのかということでお聞きただけですので、とりあえず今の段階ではそういうことなので結構でございます。

それともう一つ、今この返答の中では、この事業については、今後、要綱の見直しを考えているということで、非常に期待するところでございますけども、私の2問目の話になりますと、その要綱の変換は無事そういう私のこれから質問することに合致していれば、それはそれでいいことだなと思いますんで、要綱の考え方について、また再度お尋ねしたいと思いますが、一つ今現在行われている店舗出店等支援事業補助金については、こ

れはこの中には書いてないんですけども、同じ方がまた新規、さらに、今で言う新築とか店舗の活用の中で、その事業をはじめようとする、そういう方というのは対象になるのでしょうか。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） おそらく2店舗目とかということになるのでしょうか。今現在の要綱上でいくと、1事業同一人が1回限りということでの整理になっていますので、対象にならないんですけども、以前、谷口議員からも第2創業とかということでのお尋ねもございまして、その辺も含めて、金額が今の300万円かどうかということは別にしまして、その辺もこれからの時代はそういうふうなことになると思いますので、検討していきたいと考えております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 詳しい要綱というのはあるんでしょうけども、とりあえずネットとかの補助金の要綱の中には、そういう同じ人間が何度もとか、何年たたなきゃだめだとか、そういう縛りは書いてませんので、そこら辺はどうなのかなということでお聞きただけでありまして、そういうそちらの方でそういう縛りがあるということで理解させていただきます。わかりました。本当に1点目については、確認でございますので、本当にいい制度でこれからの訓子府にとっては本当にいいことだなと思っております。さらによくしてほしいなということで、2点目の質問になる訳なんですけども、これについては、似たようなことがしばらく前の新聞の中で国も業務転換とかコロナ禍に対して、それはコロナ禍に対してということですけども、業務転換等を図る事業に対して補助金を出そうかということで、そういう検討をしているということで、新聞記事が載ってましたけども、それがどうなったのかは、ちょっと私も把握するところではないんで、それについては何か情動的なものはお持ちでしょうか。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） おそらく8日に閣議決定されたものだと思うんですけども、新聞報道等でいけば業務転換、飲食店等が宅配やテイクアウトを始める時に、その転換費用、いろいろ別にかかってくると思うんですけども、その転換費用の3分の2を補助するという事業再構築補助金というのを新設するという、報道では見ております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） そうですよね、新聞報道の中ではコロナ流行後の社会を見据えて新市場の開拓や新規事業の立ち上げに対して積極的な投資を行う、コロナ禍で経営難を乗り越えようとして、製品やサービスの事業を変革を進めながら事業を起こしていくという、事業を起こすというよりも事業形態を替えるということに対して補助金を出していこうということでございます。アンケートといいますか、現地調査をした中で、やはり5割ぐらいの方が今後そういうものに対しての必要性を感じているという、しかも改築には100万から1千万円ぐらいかかるんじゃないかというのが5割ぐらいの方の返答の中にあつたということで、それは新聞報道の中なんで、まだそれ以上の次のかたちが示されていませんので、よくわかりませんが、ただ、国も全体的なことを考えた中で、そういう必要性を非常に考えていると。ましてや、このコロナ禍で今年度の夏以降につきましては、大

きな企業、要するに資金力のある大きな企業というのは、バンバンと業務形態の変換というのがやっております。ですから、そういう資金力のあるところは、ちょっと悪いなと思えば、ぽつと替えて、新規のもので頑張っていこうとすることができるのは確かなんですけども、やはり小さい中小、しかも本当に3人、5人の家内でやっているような業態の中では次の資金力に対して不安がありますので、何かやりたいなと思ってもできないという、それが本当に現状じゃないかと思います。そこでやはり私は今回、コロナということが非常に原因となって切迫した中で今迎えている訳ですが、やはり将来の訓子府町を考えた中でも、やはりそういう新規の事業、業務転換、しかも今あるこの補助制度の拡充の中で他町から訓子府に来てくれるというの大変大事なことで、訓子府町の事業を訓子府町民の現在やっているいろんな事業者が生き残るための一つの施策として十分に検討する値があるんじゃないかと思うんですけど、まず漠然とした中で、じゃあ私がお願いしている新たな補助制度に対して再度返答をいただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 新たな補助制度ということでの考えということですけども、余湖議員の通告書だけ見ると対象とならない事業者への新たな補助制度の新設ということで、ちょっとどういう場面が想定されるのかというのは、今思いつかないんですけども、それらも含めての要綱の改正ということで見直しということを考えていますので、逆にそういう、こういう状況があるんでないかとかということで提案いただければ非常にありがたいとは思っております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） そうですか。じゃ提案してみようかな。単純な話ですよ、今の補助制度の大きな項目というか、一番の目的の中には店舗の新築、空き店舗の活用などにより新たに営業を開始する取り組みを行う事業者に対してということがあります。ということは、今、要するに新築はしない。空き店舗は使わない。そういう事業者、そういう事業を考える方というのはたくさんいるんじゃないかと思います。要するに今自分のとこで、建築屋さんにしても今自分の事務所なり工場があって、そこで何か違うことやりたいんだよということには当てはまらないですよ。よそから入ってきてくれるということも最低の条件的なことにもなってますけども、やはり一番は町内にいて、空き店舗を使わなくても、新築しなくてもできるような事業者は拾ってもらえるような方向性を考えていただきたいんですけども、それはどうでしょうか。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） おそらく既存の事業を今、店舗事業をやられて、そこを例えば別な業種でやったりとかということだと思うんですけども、その辺についても、先ほどの国の方の話をさせていただきましたけども、この答弁書作ったあとの話だったんで、この国の動きなど、業務転換の補助金、その動きなども見ながらどういう場合にこれからそういう業態出てくるとか、そういうことを想定しながら見直しはかけていきたいと思っております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 国がこういうことを考えているということで、まだ具体的なことが出てないんで、もちろん時間待ちになるんですけども、やはり国の募集というのか、国

のこういうものというのは、やはりなかなか大変ですよ、申請にしろ、それを受けるまでにしろ、やはり訓子府町がこういうことを率先してやってもらうことによって、本当に時間的にも内容の充実的にも図れるんじゃないかということも非常に考えますので、やはりぜひともこれは国に先駆けてでも訓子府町でそういうものを創設していただける、創設というよりも今の制度の充実を図ってもらうということが非常にありがたい話だと思います。

ちょっと外れる訳じゃないですけども、やはりよく何年か前までは、外から大きな企業を引っ張ってきて、雇用をつくらないとか、いろいろありましたよね。ただ、うちの町長の考え方の中で、やはり大企業というか、そういう事業を引っ張ってくることも大変だし、それ以上はやはり町の中の活性化の方がいいんじゃないかと。子育ての町ということで人口にかえしていくのがいいんじゃないかというようなこともありましたけども、やはりこの事業については、そういう可能性も非常にあるんじゃないかと。両方を兼ね揃えるんじゃないかと思います。やはりよその町から入ってきてもらう人にもいい事業であるし、よその町から人がたくさん入ってきて、地元にある、今ある企業とかお店さんがなくなってしまう元も子もないというお話になりますので、やはり両方が並行していく中でよそからも入ってきてもらう町のものも活性化していく、続けていけるという体制をとるためには、やはりこの制度の充実というものは非常に必要になってくると。私も新たな創設という話をしましたが、創設しなくてもいいです、別に。これを充実してくれば全然問題ない話なんで、ぜひともお願いしたいんですけども、やはり人を呼ぶとか、こういう200万、300万という補助制度というのは非常に大きくて、最低600万円かけて300万というようなことが基本的にあるんですけども、小さな企業が、小さな店舗が一つじゃなくて三つ、四つと増えることによって、その人口的にも経営、経営というか企業になりますと、もちろんすぐやめてしまう訳でないですし、継続しますし、やはり町のためには非常になるんじゃないかということを考えます。小さな店でも特色ある、逆に言う可他町から人を呼べるような企業とか業種とか、そういうものがかかってこいば、非常にまたそれがまたもっとも訓子府町に人を呼ぶというようなことにもなりますので、大きい小さいは別としても、やはりそういう業務、新規、そういうものができるような町になることが一番いいんじゃないかと思います。先日オープンしました、あるお菓子屋さん也非常に連日盛況な中で進んです。今、訓子府町民がまだたくさん来てくれている段階じゃないかと思いますけども、これが本当にいいものだということになって、北見だ、置戸からも来てくれるようになれば本当に素晴らしい補助制度の中の1件になるんじゃないかということを感じます。やはりそういうようなことを考えますと、ぜひともこういう制度の創設というものには力を入れていただきたいと思います。室長もう一度お願いします。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） まさに余湖議員おっしゃるとおりだと思います。ただ、国の方の先駆けてというお話はあったんですけども、国ではこれ最大1社当たり1億円出すということでのこともありますんで、これについてはこちらの方が書類審査が大変だとかそういうことはもしかしたらあるかもしれないですけども、できる限りお店にとってはたくさん補助が出た方がいいということもあると思いますので、この辺につ

いては状況を見ながら見直しを行いたいと思います。今、お菓子屋さんの話出てたんですけども、まさにですね、今回、お菓子屋さん出していただいた方は、移住してきて、ここにお店を構えていただいて、ご家族皆さんで移住してきている方でございます。そういう方にぜひご活用いただけるような、今時点でもそうなってますけども、より使いやすいとか、そういう見直しを検討していきたいと思っております。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 本当に国のことは、国はそういうことを出してるし、金額の大きいところにも対応するというので、小さいところは200万からとか200万ぐらいだとかという話もありますけども、訓子府町が現在出している300万というのは本当に思い切った非常に大きな金額で非常に新規をやる方にとってはありがたい数字だと思います。ですから私はこれをもっと増やそうとかという、金額については、きりがいいんで、増やす必要性はあまり感じてはいないんですけども、やはりより多く使ってもらえるように、より多くの方がこれを利用して新規で事業を起こす、業態転換をしながら頑張っていけるというかたちが本当にいいんじゃないかと思えますんで、そこら辺の必要性は非常に感じてますので、よろしくお願ひしたいなと思っております。ただ、今コロナ禍でこういう現状になりましたんで、コロナ禍にならなくてもこの補助金制度については転換をお願ひしたいということで考えてはいましたが、今、本当にコロナ禍ということで、こんだけ長引いて、ある我々みたい、我々みたいなと言ったらおかしいですけど、飲食業とかにとっては、本当にいつどうなるかわからないような現状というのはあるんじゃないかと思っております。ですからそういう方々が今何かを考えるんだとすれば、早い手当てが必要であります。これからやる補正予算の追加議案もありますけども、はっきり言って、ありがたいものではあっても、それで満足とか、それが継続できるものじゃないなというふうに感じてはいますので、そういうことじゃなくて、やはり自立して自分たちが業務転換しながらでも何か新しいことを考えて、そういうきめ細やかな補助制度の設立ということで、金額をもっと高くすれとか言わないですけども、何か使いやすい、もっともっとやりやすい、受けやすい体制をとっていただきたいなということを感じていきますので、いい転換を望みますので、よろしくお願ひしたいと思います。室長にこの後聞いてもしょうないんで、町長にお聞きしたいと思います。感想をよろしくお願ひします。

○議長（須河 徹君） 町長。

○町長（菊池一春君） 平成26年からこの事業を始めて大成功の事業でないかと僕は思ってます。私の政策の中でも非常に実利を上げている政策でないかなと思っております。ただし、余湖議員が先ほどから冒頭出てるように、非常にメンタルです。それぞれの形態、それぞれの家庭の状況、これらを平等でしかも客観的に評価することの難しさというのは、お金がまつのだけに担当は相当苦労しながら今進めているというのが実態です。ここでこういう話をあまりやると個人名が出ちゃったら危ないんでね、ちょっと歯切れの悪い答弁してますけども、私が言っても同じことじゃないかな。しかし、私はやっぱりこれは商店街の活性化や、あるいは人口増対策、それから失われていく業種を少しでも補っていけるような政策につながっていけるのであれば大変すばらしいことではないかなというふうに思っています。西の方からいきますか、この関係とは関係ありませんけれども、ポンピリカという板門店という焼き肉屋をやっている男が突然やってきて農家を買いました。そし

てそこでサロンを開催しました。そして中村屋というコーヒーをやっていた人が焙煎を始めました。その上で駒里へ行くと解体屋の若い人が訓子府の町に住み始めました。現に解体業もう始まってきています。山田整骨院が残念ながら去って行きました。その後は、今、若い方が新しい店を出していきました。旅館もしかり。旅館はもう高齢で体力的にも難しいという状況の中でくんねっぷ旅館を旅の宿くんねっぷが今、新たな経営者が出てきています。そういうことを数挙げていくと、この事業がもたらした、例えばパン屋とお菓子屋がほしいということで私は東京までも出向いていきました。パン屋は断念したり、お菓子屋も断念しましたが、その話を聞いた今の店主がお菓子屋を始めたり、パン屋をやろうと思っていた日出の障がいのある方がこの補助金を使って活用しようと思ったけど、どうしても営業ということにはまだまだ難しいということで、自力でパンをコパンという店をはりながら地道にやっている。これはそういう点でいくと、今、新たに日出の農協の跡にも塗装屋さんが出てくるということで話は出ていますけれども、含めていくと、こういうある意味での呼び水の事なことというのは、非常に大事だというふうに思っています。国はこれらの改革に対しては300万です。これだけの金額を大判振る舞いしてるというのは道内でも訓子府ぐらいでないかなと私は思っています。まだまだ直さなきゃならないことがたくさんあります。だけどこれが地元の商工業や道内、道外からでも進出してくるような人たちに、そのきっかけの一助になれば大変素晴らしいことではないかなと私は思います。ぜひですね、ちょっとメンタルな部分あるのは余湖議員よく知っていると思いますから、これは室にですね、直接行って具体的な話をさせていただきたいと。ここで公に議事録に載るような話ではなじまない部分もたくさんありますので、ぜひお願いしたいのと、同時にまた、やっぱり商工会がこれらの要望をきちんとまとめて、そして町に要請する。あるいは、より具体的な活用が拡大できるようなものをつくっていくということが望まれるんじゃないかなと私は思っていますので、ぜひ商工会の副会長も議員にいますから、これらについてもですね、よりこれが発展していくような施策となるようにですね、みんなですべてやっぱりつくっていく、盛り上げていくような状況をぜひ育てていただきたいと思います。お願いします。

以上です。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） 大変言いにくいところも、具体的なお店の名前も出して、確かに今、具体的に出されたお店についても本当に町内じゃなくて、よそから来て、最終的には訓子府の売り上げの一役になるんじゃないかと思って、町民みんなが期待しているところではないかと思えます。確かにみんながこういう事業に対して出てきてくれた事業者、ならびに店舗とか、そういうものに対して町民はみんな期待しているもんだと思います。ですから、また話しは戻る訳じゃないですけども、やはりこの補助制度の見直しを図っていただいて、本当に地元の企業、地元の人が残れるような使いやすい感じ、もちろんいろんな審査は必要だと思います。将来的な展望とか、そういうものを求めた中で、やはり地元に残ってもらって頑張ってもらえるような企業の創出、ならびにやはりよその町からも訓子府に行けば、そういう将来開けるんじゃないかということで入ってもらうことの必要性というのは非常にあると思いますので、これは今の町長の話では、商工会も協力してというように、本当に実際に室長もいろいろ勉強しているでしょうけども、商工会はプロ

の集まりだと思いますし、海千山千の役員さんもたくさんいらっしゃいますし、立派な事務局長もいらっしゃいますので、やはり十分な意見を出していただいて、共同でいい変革を願いたいと思います。ただし、先ほど言いましたように、このコロナ禍の影響というのは大きいので、やはり早急な、もう来年度にはとかという話もわかりますけども、もっと早くてもいいんじゃないかと思うぐらいで、お金のことは別としましても、やはりそういう制度の見直しとかというのは、もっともっと早急にやっていただくべきじゃないかと思いますので、ぜひとも、いい、使いやすい変換をお願いしまして、最後に再度、町長の決断というのは大きいんじゃないかと思いますので、ぜひともいい制度の見直しをしてほしいんですけども、一言よろしくお願いします。

○議長（須河 徹君） 町長。

○町長（菊池一春君） 具体的なケースは坂井室長の方ですべて把握しておりますので、この26年から始まったこの事業の長所と短所含めて、きちんと見直していかなきゃならないだろうと。それから、もう1点大事なことはですね、このやつは職員が、室長が独断で、あるいは町長が独断で決めていることではないということです。それは信用金庫の支店長もさることながら、各界のやっぱり代表の方で、あるいは具体的な経営的なプロの方にも審査会に入っていてやっていますので、そういう点では、住民に問われた時に、どうしてこれが認められたのか。これがどうして駄目だったのかということをはっきり伝えられるような仕組みになっていますので、ぜひですね、みんなで育てていくということですね、お願いしたいと思います。これからもこの事業については、できるだけ早くと言いつつも非常に近々の課題たくさんありますので、含めてですね、検討してまいりますので、来年度からは遅くとも見直しの中での公開をしていくということになりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） 余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） もちろん返答すべてが前向きだったと思って、私は考えています。年度内というのは難しいのはわかりますけども、構想とか協議とか骨組みについては、やはりなるべく早い時期にある程度のかたちのものをつくって安心して次を迎えられるような体制をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

ありがとうございました。終わります。

○議長（須河 徹君） 8番、余湖龍三君の質問が終わりました。

これにて、一般質問を終了いたします。

◎議案第73号、議案第75号、議案第76号

○議長（須河 徹君） これより、提案理由の説明が終わっております一括議題の議案第73号、議案第75号、議案第76号について、質疑、討論、採決をいたします。

一括議題の質疑にあたりましては、議事進行上、議長が指定した議案ごとに、1人につき2回までといたします。

はじめに、議案第73号の質疑を許します。議案書1ページ。

ご質疑ありませんか。

3番、工藤弘喜君。

○3番（工藤弘喜君） 一般会計に関わる質疑ということになりますので、1、2点ちょ

っと質問させていただきたいと思います。

ページから言いますけれども、まず一つ目なんです、10ページ、今、余湖議員の一般質問の中でも言われていましたけれども、店舗出店等支援事業、商工業振興費に関わることでありますけれども、今回の300万、いわゆる新規出店なんです、これについて、もう少し詳しい中身について、説明できる範囲でお願いをしたいと思います。

それから次の、すぐ下の囲みになりますけれども、第6項の住宅費に関わる住宅管理費ですね、この中で、これも説明、前段の議案の説明の中で町営住宅の維持管理事業として、備品購入費で156万7千円という金額が示されておりますけれども、このストーブ14台等々ですが、これは全然数字そのものは、私は問題ないとは思っているんですが、ただちょっと気になるのは、いわゆる築何年という経過年数を経た町営住宅があることによって、これからどのぐらいのこういう取り替えも含めたものが予想されるのかということの背景は、やはり極めて、何て言うんですか、もし何かあった時には重大なことにも起きかねない事態というのにも出てくるのかなということもありますので、ストーブとか給湯器とかということも考えますと。そのための点検とか状況確認というものがどういうふうにされてきているのか。先に向けてこういうものが本町にどのぐらいまだ残っているのかということをお聞きしたいと思います。結構古くなっているものもまだまだあるのかなというふうに思いますので、すいませんけどよろしくお願ひいたします。

○議長（須河 徹君） 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長（坂井毅史君） 10ページの7款、商工費、2目、商工業振興費の訓子府町店舗出店等支援事業補助金、300万円の詳細ということですが、日出にですね、今、空き店舗あるんですけども、そちらに北見市で経営をやられている自動車の板金塗装の会社がそちらをやめて、今度、経営者が変わって、今されている方は今度従業員になるそうなんですけども、その方が来て、日出を拠点にして自動車の板金塗装をやるということでの申請でございます。

○議長（須河 徹君） 建設課長。

○建設課長（渡辺克人君） 10ページ、住宅管理費の町営住宅管理事業の備品購入費、住宅用備品の156万7千円の補正の関係でございます。

当初ですね、ストーブ7台、石油給湯器5台ということで、費用で195万円を見込んでおりましたが、故障と15年、20年たったものについては部品がないということで、取り替えということで進めております。10月末現在につきましては、もう既にストーブが14台、石油給湯器1台、ガス給湯器2台、洗面化粧台1台ということで18台との取り替えをさせていただいてます。その後、この後もですね、厳冬期入りますので、その後5台ぐらいストーブの変更もあるということで80万円を予定し、合計で351万7千円ということで156万7千円の補正をしております。それでどのぐらいの年数たっているのかという住宅ですけども、ちょうどこの住宅、ストーブ、それと給湯器というのは、当初昔は付いてなかったんですけども、平成6年の穂波団地建ててからですね、各部、標準装備となっております、穂波団地で言いますと現在、平成6年から11年にかけて7棟52戸の住宅がありますが、そのうちですね、データの的には8年前からのちょっとデータしかないんですけども、ストーブにつきましては、もう既に23台交換しておりまして、残り29台ぐらいあるだろうというふうに見てございます。また給湯器も9台交換してお

りまして、給湯ボイラーにつきまして、まだ43台ぐらい経過年数が到達しているかなというふうには思ってます。その他の末広団地もですね、これも平成13年から27年、最近まで建てておりますけども、15年経過しているものにつきましては、18棟53戸ありまして、この部分につきましては、ストーブについては5台、給湯器については4台について変更してますけども、残りですね48戸、ストーブについては48戸まだ15年経過しているものがあるということ。それと給湯についても10戸程度あるということです。その他、単身者住宅もあります。単身者住宅も平成5年から建てておりまして、平成12年までつくっております。全部で3棟36戸ですけども、ここにつきましては、もう15年経過しておりまして、ストーブの交換につきましては、今のところ36戸のうち9台ですね、その後まだ交換が必要なものについては27台程度、ストーブについてはあるということでございます。そういった中で、これからどんどん経過してくる。15年、20年、部品がないという部分が出てきますので、今後出てくるかと思いますが、その中でどのように点検されて、状況把握しているかということでございますけども、担当者の方でこの年数、交換してないところ把握しております。そういった中で順次ですね、報告があった時点で直すということで、連絡を密にといいますかね、入居者と対応をして対応してございます。そういった中でですね、今後事故のないように進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

7番、山田議員。

○7番（山田日出夫君） 7番、山田です。質問ないかなと思って3分前までは思ってたんですけども、ちょっと気付いた、たぶん聞き漏らしたと思いますので確認の意味も含めてお聞きします。

ページは7ページ、総務費、総務管理費、8目、企画費の600万の点ですけども、まず1点目の女満別空港整備うんぬん負担金、16万円ですけども、これ新航路便に対する2市9町で構成している会の負担金ということでしたけども、何か金額が新航路という割には小さいということも含めて確認させてください。内容と積算根拠です。

それと二つ目の新型コロナウイルス対策事業でこれは減便支援分が32万円、レンタカー代1台1万円で12万円、12台分ですかね、これも何か数字が随分、両方とも32万にしても12万にしても何か支援するにしては少ない印象ですけども、根拠をお願いします。

○議長（須河 徹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（篠田康行君） 7ページの2款、1項、8目、企画費のですね、地方交通対策事業の負担金、補助の関係で女満別空港のまず利用促進協議会負担金の新規就航支援の関係ですけれども、これにつきましては協議会、11市町あるんですけども、この中で割り振りがされております。まず中身の方から申し上げますが、LCCでピーチアビエーションがですね、2月から就航されることでマスコミ報道されてご承知かと思えます。そこに対する支援でございます。それで額の関係なんですけれども、11市町ということで、この協議会の会長になります大空町ですね、地元大空町、その他2市、網走、北見、それから副にあたります美幌、斜里ですね、こちらの方が割合多くてですね、全体事業費

としましては800万見込んでおります。そのうち訓子府につきましては2%の割り振りがありまして16万となっております。

その下のですね、新型コロナウイルスの減便の方なんですけれども、こちらにつきましては、従来から就航している事業者、航空事業者に対するものでして、こちら先ほどの考え方で、役ですとか、市の部分で割合があって、同じく2%で、総額がですね、1,616万6千円のうちの2%ということで、訓子府町の負担分としては32万円と。

それからレンタカーなんですけれども、こちらピーチアビエーションを使って女満別空港を利用してレンタカーを使った場合ですね、こちらについて、ピーチアビエーションの方でもキャンペーンをその分やっていることで、それに対する上乗せをしていこうということですね、総額で605万円です。そのうちの2%が訓子府の負担分ということで12万円といった内容になっております。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

10番、西山議員。

○10番（西山由美子君） 10番、西山です。9ページお願いします。6款、1項、3目の農業経営確立事業の新規就農者支援助成金、今年度5名分ということですが、該当する実践会地区のもし、差し支えなければ実践会地区名を教えてください。5名のですね。

それからその下の保全型農業直接支払交付金ですが、今現在、訓子府町において有機農業、あと減農薬農業をやっている農家戸数がもしわかれば教えていただきたいと思います。

○議長（須河 徹君） 農林商工課長。

○農林商工課長（大里孝生君） 今、西山議員からお尋ねがありました、6款、1項、3目、新規就農者等支援助成金、その部分の今回の対象者5名の実践会内訳について、まずお答えします。西富が1名、日出が2名、高園が1名、北栄が1名となっております。

続きまして、環境保全型農業直接支払交付金、この部分の内訳について説明いたします。

これは、今年度、有機農業に取り組んだとか特別栽培に取り組んだというようなことに対する取り組みに対して補助金を流すものでして、実際、西山議員が言われる有機に取り組んでいる方と特別栽培に取り組んでいる方とちょっと乖離^{かいり}があります。だからこの事業に間に合わせるためにちゃんとカバークロップを期日までにまけた方とかいうかたちになってきますんで、ざっくりとお答えする部分は一つありまして、有機と特別栽培に訓子府で取り組んでいる方は約100名ほどいらっしゃいます。その中で今回の補助事業に対しての取り組みの内訳を申し上げますんで、その内数になってくると思いますのでご了解ください。カバークロップですね、これは特別栽培をやって、その後に緑肥作物を植えて確実に畑にすき込むというような取り組みをされた方、17戸いらっしゃいます。また、有機農業は7戸いらっしゃいます。有機農業は有機農業をやればちゃんと出荷とかそういったものは出荷先とか問われるんですけども、有機農業は全部もれなく対象になってきますんで、100戸の中の有機農業7戸というのは、この事業の取り組みとイコールですし、訓子府で有機やっている方は7戸なんだなというような見解でよろしいかと思います。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

6 番、西森信夫君。

○6 番（西森信夫君） 6 番、西森です。8 ページの 3 款、2 項、1 目の児童福祉総務費の中の子育て支援事業、これの町外認可外 1 名となっておりますが、これの経過とそれからこの事業に対する国費の補助、それから道費から出てるのか、最終的に町費としてどのぐらいなのかお尋ねします。

○議長（須河 徹君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（山本正徳君） ただいま、3 款、2 項、1 目、児童福祉総務費、19 節、負担金、補助及び交付金、その中の子育て支援事業の中の広域入所負担金、44 万 4 千円の補正の部分についてのご質問がありました。

これにつきましては、昨年 10 月から国による幼児教育無償化によりまして、認可外の保育施設も 3 歳以上の幼児に対し、月額 3 万 7 千円を上限に対象となることとなりまして、本町の対象者 1 名分を計上しているものでございます。上限額、月額 3 万 7 千円の 12 か月の 44 万 4 千円の負担金額となります。この方につきましては、保護者につきましては、町外、北見市にお勤めになられている方ということで、本町のこども園入所がちょっと厳しいという方になります。国費、道費の補助につきましては、歳入の方にありますけれども、4 ページ、14 款、1 項、1 目、これは国費の負担金となります。これにつきましては、国からは 2 分の 1 の交付金、道費につきましては、同じページの 15 款、1 項、1 目にありますように交付金につきましては 4 分の 1、11 万 1 千円の交付金が出るかたちとなります。

以上です。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

4 番、谷口武彦君。

○4 番（谷口武彦君） 4 番、谷口です。3 ページの第 3 表 債務負担行為の消防庁舎建設事業の中の内訳になるんですが、外構工事も含まれていると思うんですが、外構工事、図面の方もいただいて見ますとヘリポートの北側なんですが、メゾンの通りといいますか、あそこのぶつかったところまでが外構工事なのかと思いますが、それより向こうの北側の道路にぶつかるところが大変、住宅の間に挟まって狭いとかってところもありまして、その方は外構工事の中には外れているのか、入っているのか、一時停止とかもないものですから、ミラー化とか、そういうことも考えて、こちら入っているのか、入っていないのかをお聞きしたいと思います。

○議長（須河 徹君） 建設課長。

○建設課長（渡辺克人君）

○議長（須河 徹君） ただいま、3 ページの消防庁舎建設事業の関係で外構ですね、外構、単身者住宅の間の道路のことについて、整備に入っているかということでございますけれども、そのエリアにつきましてはですね、今回の消防庁舎の整備の中には入ってございません。その後ですね、今の予定、あくまで予定ですけども、庁舎につなぐ連絡道ということで、その後整備する予定で今のところ検討しているということでご理解願います。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 質疑がないようですので、議案第 73 号の質疑を終了いたします。

次に、議案第75号の質疑を許します。議案書18ページです。
ご質疑ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 質疑がないようですので、議案第75号の質疑を終了いたします。
次に、議案第76号の質疑を許します。議案書21ページ。
ご質疑ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 質疑がないようですので、議案第76号の質疑を終了いたします。
以上をもって、質疑を終了いたします。
これより一括議題の討論を行います。
討論にあたっては、議案番号を指定してから討論願います。
まず、各案に対する反対討論の発言を許します。
討論ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 次に、各案に対する賛成討論の発言を許します。
討論ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。
これより一括議題の議案第73号、議案第75号、議案第76号の採決をいたします。
討論のなかった案件については、一括採決をいたします。
議案第73号、議案第75号、議案第76号は、原案のとおり決定することに、ご異議
ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 異議なしと認めます。
よって、議案第73号、議案第75号、議案第76号は、いずれも原案のとおり可決さ
れました。

◎議案第74号、議案第77号、議案第78号

○議長(須河 徹君) これより、提案理由の説明が終わっております議案第74号、議
案第77号、議案第78号について、各案ごとに質疑、討論、採決をいたします。
最初に、議案第74号の質疑を行います。議案書13ページ。1人3回まで質疑を行え
ます。
ご質疑ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 質疑がないようですので、これをもって質疑を終了いたします。
これより討論を行います。
討論ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。
これより、議案第74号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

次に、議案第77号の質疑を行います。議案書25ページ。1人3回まで質疑を行えます。

ご質疑ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 質疑がないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

これより討論を行います。

討論ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。

これより議案第77号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

次に、議案第78号の質疑を行います。議案書28ページ。1人3回まで質疑を行えます。

ご質疑ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 質疑がないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

これより討論を行います。

討論ありませんか。

(「なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。

これより議案第78号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○議長(須河 徹君) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第80号

○議長(須河 徹君) 次に、追加日程第1、議案第80号 令和2年度訓子府町一般会計補正予算(第7号)についてを議題といたします。

提出者からの提案理由の説明を求めます。議案書55ページです。

企画財政課長。

○企画財政課長(篠田康行君) 議案書の55ページをお開きください。

議案第80号 令和2年度訓子府町一般会計補正予算(第7号)の説明を申し上げます。

まず、第1条では、歳入歳出それぞれ570万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ56億7,401万8千円とするものでございます。

第2項にありますように、この補正の款項の区分ごとの金額等につきましては、次のページの第1表のとおりであります。これについてはご覧いただくこととし、57ページの歳入歳出予算補正事項別明細書により説明をさせていただきます。

それでは、57ページの歳出の事項別明細書から説明をさせていただきます。

下の表になります。

2款、1項、8目、企画費の事業区分、新型コロナウイルス対策事業では、新型コロナウイルス対策経営支援金として、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあり、特に年末に向けて飲食店および宿泊業に大きな影響が見込まれることから、店舗の感染症予防対策と経営継続を目的に一律30万円を支援するもので570万円を追加するものでございます。

次に、上の表の歳入になります。

19款、1項、1目、繰越金では、今回の補正に伴う財源調整として前年度繰越金570万円を追加するものでございます。

以上、令和2年度訓子府町一般会計補正予算(第7号)の内容について、説明をさせていただきました。ご審議の上、ご決定をいただきますようよろしくお願いいたします。

○議長(須河 徹君) ここで午前10時50分まで休憩いたします。

休憩 午前10時40分

再開 午前10時50分

○議長(須河 徹君) 休憩前に戻り、会議を再開いたします。

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。1人3回まで質疑を行えます。

ご質疑ありませんか。

4番、谷口武彦君。

○4番(谷口武彦君) 4番、谷口です。先ほど説明ございました旅館と飲食店に30万円ずつ補助を出すということでしたが、前回の持続継続の場合、観光業も最初に入っていたと思うんですが、また、その他の業種も今後検討されているのか。本当にこの年末のための飲食店、旅館だけの補助なのかをお聞きしたいと思います。

○議長(須河 徹君) 元気なまちづくり推進室長。

○元気なまちづくり推進室長(坂井毅史君) 今、谷口議員から飲食業と宿泊業だけかということだったんですけども、11月以降にコロナウイルスの第3波とともとれる急激な感染拡大において、北海道では札幌市の例えば不要不急の往来を控えるとか、飲食の場面における感染リスクの回避ということで、出ております。これによって飲食業と宿泊業については、本町の場合も、また町民の方も自粛がすごい広がってまして、あんまりお客さんが出てないという状況も踏まえて飲食業と宿泊業を緊急的に支援するということでの、この業種の選定でございます。他の業種については、この第3波であろう感染がくる前まで

は多少、全業種とは言わないですけども、回復傾向にあったんではないかと思いますので、この感染以降も踏まえて検討していきたいと。今のところはまず早急に飲食業と宿泊業での支援を行うということでございます。

○議長（須河 徹君） ご質疑ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 質疑がないようなので、これをもって質疑を終了いたします。

これより討論を行います。

まず本案に対する反対討論の発言を許します。

討論ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

討論ありませんか。

○議長（須河 徹君） 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。

これより議案第80号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎追加日程の議決

○議長（須河 徹君） お諮りいたします。

ただいま、余湖龍三君ほか4名から意見書案第6号 コロナ禍による地域経済対策を求める要望意見書の件が提出されました。

この際、これを日程に追加し、追加日程第2とし、ただちに議題といたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 異議なしと認めます。

よって、この際、意見書案第6号を日程に追加し、追加日程第2として、ただちに議題とすることに決定しました。

ここで、意見書の配布の関係から暫時休憩といたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前10時56分

○議長（須河 徹君） 休憩を解き、会議を再開いたします。

◎意見書案第6号

○議長（須河 徹君） これより、追加日程第2、意見書案第6号を議題といたします。

提出者からの提案理由の説明を求めます。

余湖龍三君。

○8番（余湖龍三君） ただいま、議長のお許しをいただきましたので、意見書案第6号について、ご説明いたします。

意見書案第6号

コロナ禍による地域経済対策を求める要望意見書

上記の意見書案を会議規則第14条第1項及び第2項の規定により別紙のとおり提出する。

令和2年12月10日

訓子府町議会議長 須 河 徹 様

提出者	訓子府町議会議員	余 湖 龍 三
	〃	仁 木 義 人
	〃	西 森 信 夫
	〃	山 田 日出夫
	〃	西 山 由美子

この要望意見書の説明につきましては、朗読をもって説明にかえさせていただきます。

次のページをお開きください。

（以下、意見書朗読、記載省略）

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年12月10日

北海道常呂郡訓子府町議会議長 須 河 徹

内閣総理大臣 様

財 務 大 臣 様

農林水産大臣 様

以上でございます。ご審議の上、ご決定くださいますようよろしくお願いします。

○議長（須河 徹君） これより質疑を行います。

質疑は、提出議員に対する質疑といたします。1人3回まで質疑を行えます。

ご質疑ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 質疑がないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

これより討論を行います。

討論ありませんか。

（「なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 討論がないようですので、これをもって討論を終了いたします。

これより、意見書案第6号の採決を行います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（須河 徹君） 異議なしと認めます。

よって、意見書案第6号は原案のとおり可決されました。

◎閉会の宣告

○議長（須河 徹君） 以上をもって、本定例会に付議された案件の審議は、全部終了いたしました。

これにて、令和２年第４回訓子府町議会定例会を閉会いたします。

本日は大変ご苦労さまでした。

閉会 午前１１時 ３分